

助成年度：平成9年度

[所属] 岡山大学 資源生物科学研究所

[役職] 助教授

[氏名] 村井 保

[課題]

天敵の増殖システムと持続的利用技術の確立研究に関する研究

[内容]

1. アザミウマ類の増殖法の改良

薄膜を通して水中に産卵させる村井（1982）の方法を改良し、より効率的、簡易にかつ大量に卵を回収する方法を確立するとともに、ソラマメ催芽種子を用いたふ化幼虫回収装置を考案し、発育ステージの揃ったアザミウマの大量増殖技術を開発した。

この増殖技術は、ヒラズハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ、ハナアザミウマ、ビワハナアザミウマ、クサキイロアザミウマなどの飼育に適用できた。

2. アザミウマの天敵類の増殖法

ソラマメ催芽種子とスジコナマダラメイガ卵を代換え餌として、有力天敵としてのハナカメムシ類の室内での周年簡易増殖システムを構築した。また、アザミウマヒメコバチはクサキイロアザミウマによって増殖することが可能であることを明らかにし、クサキイロアザミウマの餌としてムギなどのイネ科植物をアザミウマの天敵を維持するためのバンカープラントとして利用できる可能性を見いだした。

3. 天敵の誘引・定着物質

アントラニル酸メチルがハナアザミウマとビワハナアザミウマ及びアザミウマヒメコバチに対する誘引活性があることを明らかにした。

アントラニル酸メチルを誘引源とする匂いトラップを考案し、圃場におけるハナアザミウマとビワハナアザミウマ及びアザミウマヒメコバチの季節的な発生消長をとらえることが可能となった。その結果、アントラニル酸メチルを用いてアザミウマヒメコバチの自然状態での発生状況を明らかにすることができ、さらに、誘引定着に利用することによって、天敵利用の効果を上げることが可能と考えられた。また、寄生蜂の探索にも利用できることがわかった。